



▲左から田中喜泰氏, Bas van Driel氏, Sander van Gessel氏

## DFE Pharma社、 新たなステージで 高機能添加剤を提供へ

医薬品グレードの乳糖のサプライヤーとして110年を超える実績をもつDFE Pharma。同社は乳製品会社であるオランダのフリースランド・カンピーナとニュージーランドのフォンテラ社のジョイントベンチャーとして設立されたが、フォンテラ社が保有する50%の株式を投資会社であるCVC Capital Partnersが取得することが2019年9月25日に発表された。同社のCEOであるBas van Driel氏は「フリースランド・カンピーナとCVCの協業によって乳糖以外の高品質・高機能な添加剤のポートフォリオをさらに強化していく」と語る。

### 品質を重視する日本企業の信頼獲得

ドイツのゴッホに本社を置くDFEは乳糖以外に崩壊剤や結晶セルロース等の医薬品添加剤約50品目を供給するとともに、直接打錠や口腔内崩壊錠、連続生産や粉末吸入剤に適したさまざまなソリューションを提供している。乳糖としては、Pharmatose, Lactochem, SuperTab, Lactopressが知られている。

「DFEの添加剤は固形製剤全体の1/3~1/2に使用されているといわれている。乳糖においては日本では約70%のシェアを獲得している。高品質・高機能はもちろんのこと、110年という長い歴史で培ってきた経験豊富な人材と絶対的な知識量、取り扱っている製品の幅広さ、製造拠点をヨーロッパ、インド、ニュージーランドと世界各国に配することで安定供給を実現するなどリスクマネジメント力の高さも評価していただいている。われわれは品質を最重視している。製薬企業様をはじめ日本市場はサプライヤーに高品質プラス安定供給を求めている。そのご要望に応えることができているから日本の製薬企

業様から認めていただいていると考えている。これまで乳製品会社2社が母体であったため、乳糖だけに注力する傾向があったが、CVC社が経営に参画することでより幅広い添加剤をご提供する土壌が整った」とBas氏は自信を示す。同社では今後、さまざまなグレードの結晶セルロースなどとの組み合わせで高機能なプレミックス品なども手がけていくという。

### 安定供給は変わらず

CVC社が経営に参画したことでビジネス上で変更点はあるのか、との質問に対してBas氏は、添加剤のポートフォリオは拡大するが、日本市場を重視する姿勢および高品質・安定供給の面では何も変更はない、と断言する。そして、CVC社の国際的なネットワークを活用することで、ビジネスチャンスをとらえることができると意気込む。

「製剤設計ではこれからますます高機能添加剤が必要になる。そのような添加剤をわれわれは開発し、さらに経験を積み、最終的にはすべての添加剤を把握するメーカーになることを目指す。製薬企業様がどのように製剤設計し、どのような投与経路とすべきか迷われた際に添加剤メーカーの立場からさまざまなソリューションをご提供できるようになれば」(Bas氏)。

DFE Pharmaの日本法人であるディーエムヴィ・フォンテラ・イクシピエンツ株式会社代表取締役の田中喜泰氏が2020年1月1日に退任するにあたり、2019年11月22日に催された退任パーティにあわせて来日したBas氏。次期社長にはSander van Gessel氏が就任する。